

遠距離恋愛支援システム

～ハグ動作の改善と顔認証システム～

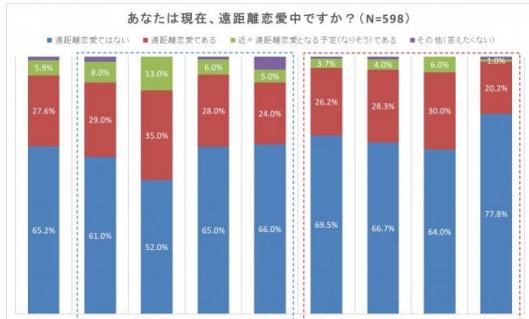
金沢工業大学工学 工学部 情報工学科
中沢研究室 坂下水彩

目的

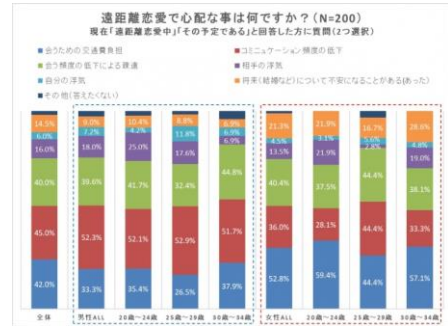
抱き枕と相手の生体情報を用いて非言語コミュニケーションを再現することによって、相手がそばにいるようなつながりを提供して離れている寂しさや不安を解消させる

背景

誰にでも遠距離恋愛になる可能性があり、不安を抱いている人が多い



約3人に1人が遠距離恋愛を経験(予定を含む)



コミュニケーション頻度の低下を心配する人が多い

出典：結婚相手紹介サービス楽天オーネット「恋人のいる独身男女の遠距離恋愛に関する調査」

問題点

非言語コミュニケーションでの情報やつながりを得られず不安になる

コミュニケーション頻度の低下



直接会う頻度が減り、文字でのコミュニケーションが中心になる

非言語コミュニケーションが困難



離れているからこそできないことがある
・体温を感じる
・心拍を感じる
・ハグ

手法

人型の抱き枕で相手の体温、心拍、ハグ動作を実現する

曲げセンサから圧カセンサへ



わたびと Mサイズ (BIBILAB)